

山信金属工業

搬送装置を開発

山信金属工業（東京都港区）は、工場の搬送ラインに用いるマグネット応用機器を手がけている。磁石単体の販売でスタートし、2014年に設立57年目を迎える。70年代に自動車用車体メーカーにマグネットを応用した搬送装置を納入後、製鉄メーカーや製缶メーカーなどで実績を積み上げている。

積載された鉄板を磁石で1枚ずつ分けるマグネットシートセパレータは、近年ではホットプレスの用途でも採用されている。山田洋社長は「磁力が強すぎても弱すぎてもダメ。磁石の組み込み方に長年のノウハウがある」と胸を張る。

同社製のマグネットパイラー（写真）

はコイル状の鉄板をプレスで連続的に打ち抜いて積載するプランキングラインの搬送工程で活躍している。

空気で吸着してアルミ板の搬送に対応できるエアサクシヨン搭載型も展開。山田社長は「開発力を駆使して多様な部材の搬送に対応した装置を開発する」と意気込む。

